

# 第2期あだち次世代育成支援行動計画策定 のためのアンケート調査報告書(概要版)

## 調査の目的

本調査は、区民の保育サービスや子育て支援、子どもの日常生活に関する実態や要望・意見等を把握し、次世代育成支援対策推進法第8条及び第9条に基づく『第2期あだち次世代育成支援行動計画』を策定するための基礎資料を得ることを目的とする。

## 調査の種類

本調査は、以下の6種類の調査を実施した。

調査種別	項目	内 容
① 就学前児童の保護者調査	対象者数	3,000人
	抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
	調査方法	郵送配布・郵送回収(礼状形式の督促1回実施)
	調査時期	平成21年1月9日～2月2日
	回収率	53.2%
② 就学児童(小学1～3年生)の保護者調査	対象者数	1,600人
	抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
	調査方法	郵送配布・郵送回収(礼状形式の督促1回実施)
	調査時期	平成21年1月9日～2月2日
	回収率	53.1%
③ 小学4～6年生調査	対象者数	1,754人
	抽出方法	全 員
	調査方法	学校を經由して配布・回収
	調査時期	平成21年1月9日～2月2日
	回収率	84.0%
④ 中学生調査	対象者数	1,454人
	抽出方法	全 員
	調査方法	学校を經由して配布・回収
	調査時期	平成21年1月9日～2月2日
	回収率	76.2%
⑤ 高校生調査	対象者数	1,058人
	抽出方法	全 員
	調査方法	学校を經由して配布・回収
	調査時期	平成21年1月9日～2月2日
	回収率	94.0%
⑥ 青年調査	対象者数	1,200人
	抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
	調査方法	郵送配布・郵送回収(礼状形式の督促1回実施)
	調査時期	平成21年1月9日～2月2日
	回収率	24.2%

- ◆この冊子の数字は、すべて回答者全員を100%とした比率です。
- ◆四捨五入の関係で、合計が100%にならない場合があります。
- ◆複数回答の場合は、合計が100%を超えます。
- ◆「n」は、回答者数のことです。
- ◆グラフの中には、スペースの都合により、選択肢を一部省略しているところがあります。

## ◆調査結果のまとめ

### 1. 就学前児童・就学児童（小学1～3年生）の保護者

#### ○ 「子育てしやすいまち」の理由

「子育てしやすいまちだ」と回答した人（約4割）のその理由は、就学前、就学児童の保護者どちらも「公園など子どもの遊び場が多い」が最も多く7割以上となっている。また、就学前児童の保護者は、第2位に「子育てサロンや児童館が充実している」（41.2%）をあげており、毎年増設している「子育てサロン」や児童館の「子育てひろば」が利用されていることが分かる。

#### ○ 子育ての悩みの状況

子育ての悩みは「子どもの遊ばせ方やしつけ」が最も多く、就学前保護者で40.1%、就学児童保護者で35.2%となっている。また、就学前、就学児童の保護者ともに上位を占めているのが、「子どもの時間が十分にとれない」「仕事や自分のことが十分にできない」となっていることから、もっと余裕を持って子育てをしたいと考えられていることがうかがえる。

#### ○ 仕事と子育ての両立

就学前、就学児童の保護者どちらも、両立に必要なものの第1位は「家族の協力」と回答している。この調査の回答者の約9割が母親であることから、家族の協力を求めているのは主に母親であることが分かる。また、第2位は「職場の中の意識や理解、協力体制」となっており、事業所における子育て支援制度の導入、ワーク・ライフ・バランスの推進が求められている。

#### ○ 子育て支援の重点施策

就学前児童の保護者では「誰でも利用できる一時保育」が最も多く41.4%、次いで「預ける時間が選べる保育園」が33.2%となっている。就学児童の保護者では「体験活動の場づくり」39.3%、「学力向上の推進」38.5%が、ほぼ同様の割合を示しており、体験活動も学力もどちらも重要であると考えられていることが分かる。

### 2. 小学生（4～6年生）・中学生・高校生・青年

#### ○ 生活リズムの状況

多くの子どもは朝食をきちんと食べているが、年齢が上がるにつれて食べない子どもが増えている。小学4～6年生の起床時刻は約8割が午前7時頃以前で、中学生の起床時刻も小学生と同傾向だが、6時前と7時30分頃の割合が増えている。就寝時刻は年齢が高くなるにつれて遅くなっている。

#### ○ 携帯電話の使用率と使用に際してのルールの有無

携帯電話の使用率は、小学4～6年生で39.7%、中学生で76.4%となっており、平成20年7月に東京都が実施した調査と比較して、小学生はほぼ同程度、中学生は10%ほど多くなっている。

使用に当たってのルールの有無については、小学4～6年生で75.9%、中学生で61.3%が「ある」と回答しており、利用頻度が高い中学生でルールがないという回答が高くなっている。

#### ○ 小中学生の保護者の意識

小学4～6年生と中学生の保護者の9割以上は子育てを「楽しい」または「少し楽しい」と回答している。子どもの遊ぶ環境をよくするために必要なこととしては、「身近な魅力ある遊び場の整備」「自然を体験する事業の充実」「遊び場の保全・衛生管理体制の整備」が多く選択されている。

#### ○ 高校生と青年で大きく異なる自己肯定感

「自分のことが好き」「自分は人から必要とされている」「自分にはいいところがたくさんある」という設問について「そう思う」「まあそう思う」と回答した高校生では3割以下となっている。また青年では6～7割となっている。「誰かのために何かをしたい」「社会のために役立つことをしたい」という設問には、高校生、青年とも「そう思う」「まあそう思う」という回答が6～8割となっている。

#### ○ 青年の生活と仕事の満足度と就労意向

現在の生活に対して、7割の青年が「満足」「どちらかといえば満足」と回答している。

就労している青年の仕事に対する満足度では、6割が「満足」「どちらかといえば満足」と回答している。学生や無職の青年に就労の意向を尋ねた設問では、8割の青年が就労意向を示している。

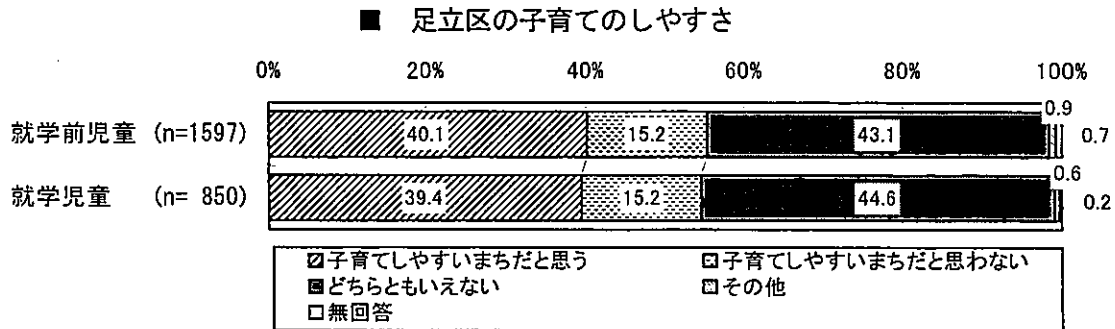
## ◆就学前児童・就学児童（小学1～3年生）の保護者

### 足立区の子育てのしやすさ

～子育てしやすいまちだと思う4割、どちらともいえないが4割強

足立区の子育てのしやすさをみると、就学前児童の保護者では「子育てしやすいまちだと思う」が40.1%、「子育てしやすいまちだと思わない」が15.2%、「どちらともいえない」が43.1%となっている。

就学児童の保護者では「子育てしやすいまちだと思う」が39.4%、「子育てしやすいまちだと思わない」が15.2%、「どちらともいえない」が44.6%となっている。



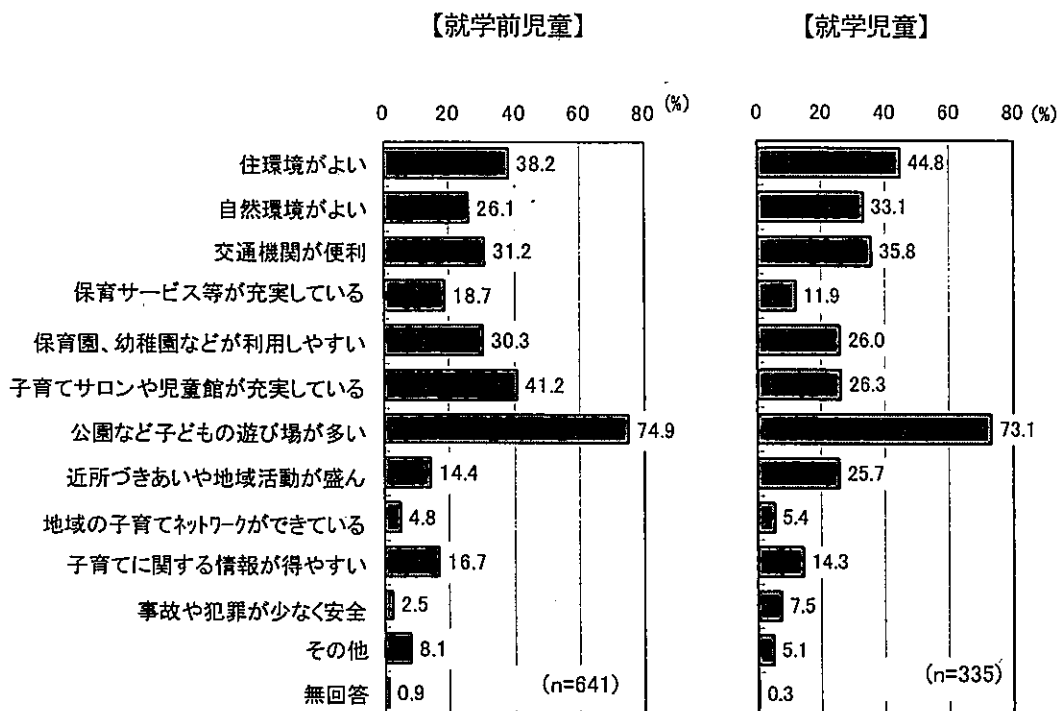
### 子育てしやすいまちだと思う理由

～「子どもの遊び場の多さ」を多くの保護者が実感

足立区の子育てのしやすさで「子育てしやすいまちだと思う」と回答した人の子育てしやすいまちだと思う理由をみると、就学前児童の保護者では「公園など子どもの遊び場が多い」が最も多く74.9%、次いで「子育てサロンや児童館が充実している」が41.2%、「住環境がよい」が38.2%、「交通機関が便利」が31.2%、「保育園・幼稚園などが利用しやすい」が30.3%と続いている。

就学児童の保護者でも「公園など子どもの遊び場が多い」が最も多く73.1%、次いで「住環境がよい」が44.8%、「交通機関が便利」が35.8%、「自然環境がよい」が33.1%と続いている。

### ■ 子育てしやすいまちだと思う理由（複数回答）



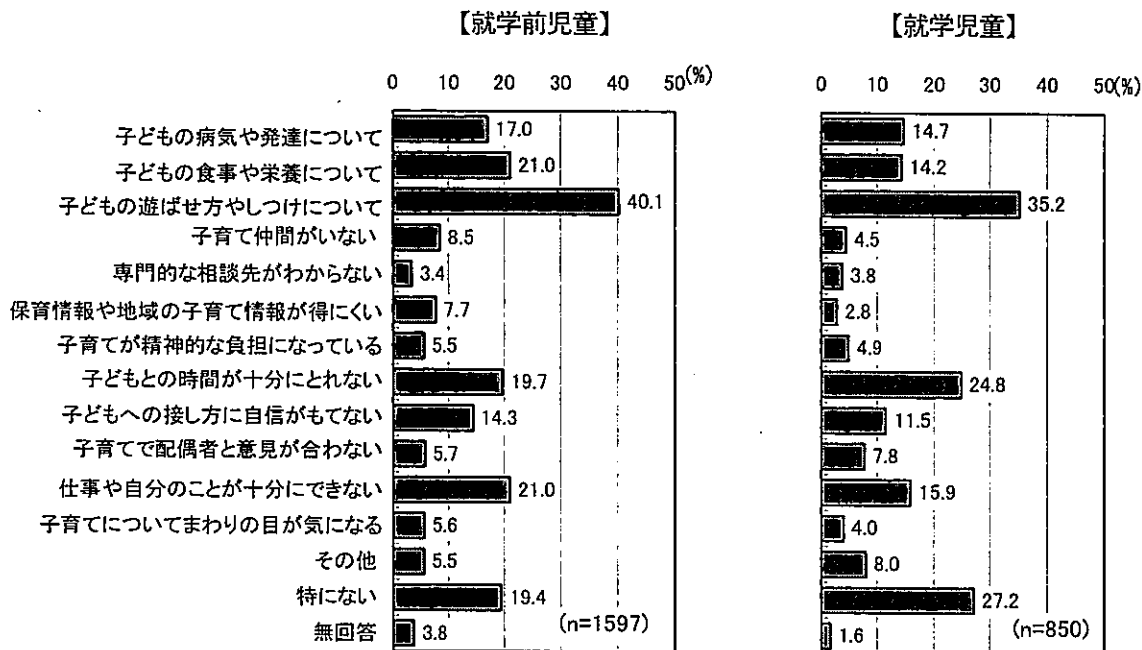
**子育てで悩んでいること**

**～遊ばせ方やしつけ、子どもと一緒に過ごす時間が足りていない**

子育てで悩んでいることをみると、就学前児童の保護者では「子どもの遊ばせ方やしつけについて」が最も多く 40.1%、次いで「子どもの食事や栄養について」「仕事や自分のことが十分にできない」がともに 21.0%と続いている。

就学児童の保護者でも「子どもの遊ばせ方やしつけについて」が最も多く 35.2%、「子どもとの時間が十分にとれない」が 24.8%となっている。

■ **子育てで悩んでいること（複数回答）**



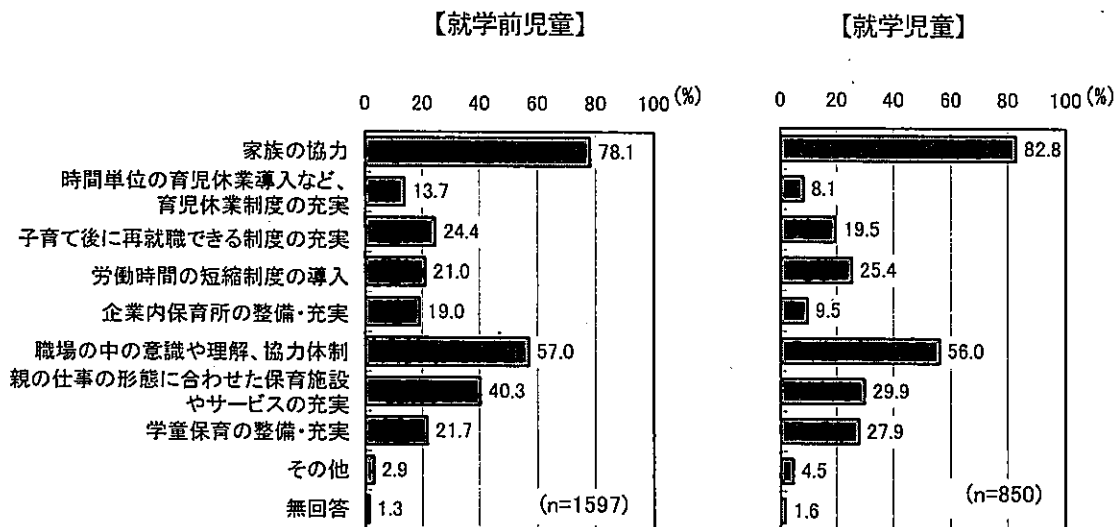
**仕事と子育てを両立させるために必要なこと**

**～家族の協力と職場の理解・協力体制がまず必要**

仕事と子育てを両立させるために必要なことをみると、就学前児童の保護者では「家族の協力」が最も多く 78.1%、次いで「職場の中の意識や理解、協力体制」が 57.0%、「親の仕事の形態に合わせた保育施設やサービスの充実」が 40.3%と続いている。

就学児童の保護者でも「家族の協力」が最も多く 82.8%、次いで「職場の中の意識や理解、協力体制」が 56.0%、「親の仕事の形態に合わせた保育施設やサービスの充実」が 29.9%と続いている。

■ **仕事と子育てを両立させるために必要なこと（複数回答）**

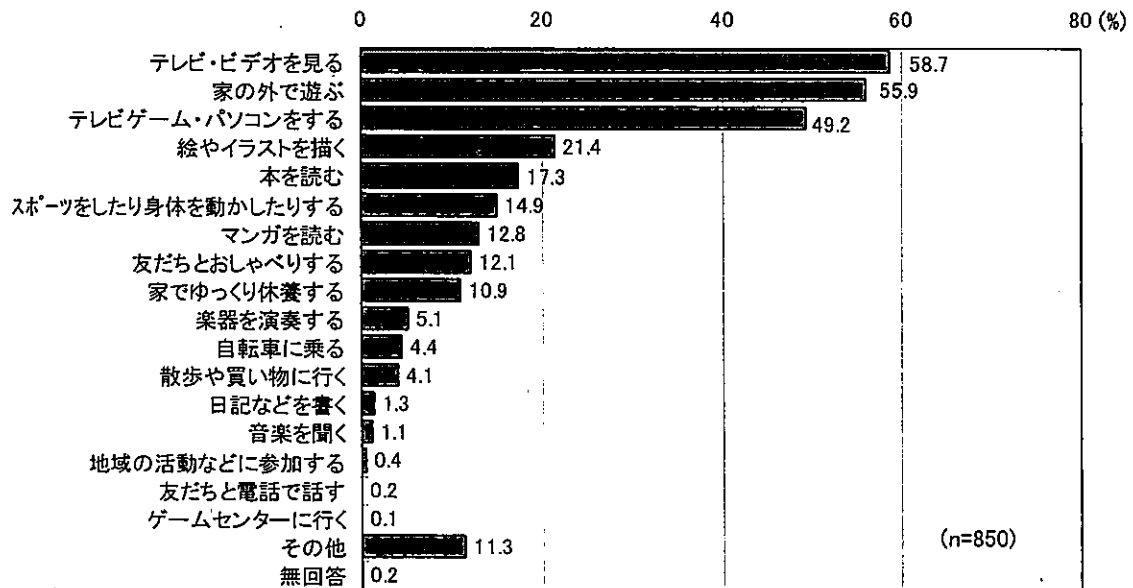


**平日の放課後の過ごし方**

～テレビ画面を見ているか、屋外で遊んで過ごしている

平日の放課後の過ごし方をみると、「テレビ・ビデオを見る」が最も多く 58.7%、次いで「家の外で遊ぶ」が 55.9%、「テレビゲーム・パソコンをする」が 49.2%、「絵やイラストを描く」が 21.4%と続いている。

■ 就学児童の平日の放課後の過ごし方（複数回答）



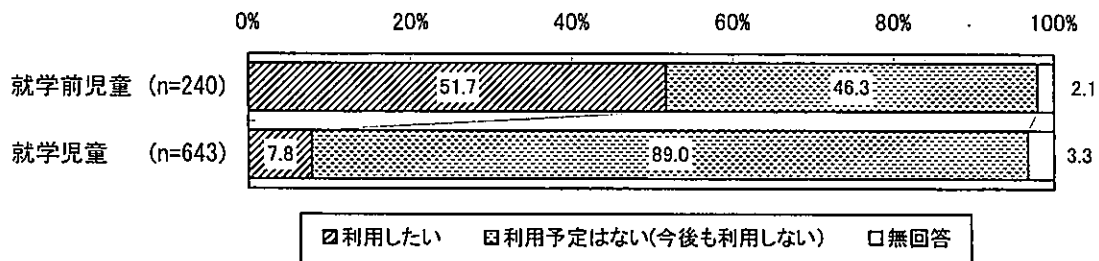
**学童保育室の利用意向**

～就学前児童の保護者では半数超の利用意向

学童保育室の利用意向をみると、就学前児童の保護者（5歳児が対象）では「利用したい」が 51.7%、「利用予定はない」が 46.3%となっている。

就学児童の保護者で現在学童保育室を利用していない人では「利用したい」が 7.8%、「今後も利用しない」が 89.0%となっている。

■ 学童保育室の利用意向

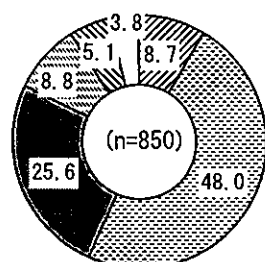


**小学4年生以降の放課後の過ごし方の意向**

～キッズぱれっとの利用意向が5割を占める

小学4年生以降の放課後の過ごし方の意向をみると、「キッズぱれっとを利用したい」が最も多く 48.0%、次いで「クラブ活動や習い事、学習塾に行かせたい」が 25.6%となっている。

■ 就学児童の小学4年生以降の放課後の過ごし方の意向



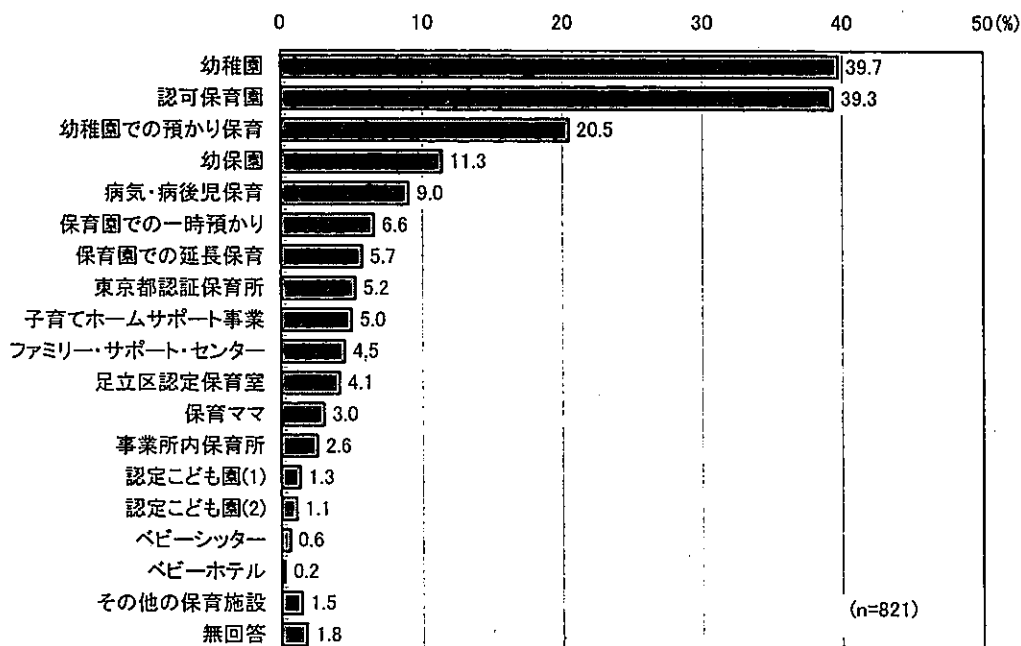
- 学童保育室を利用したい
- キッズぱれっとを利用したい
- クラブ活動や習い事、学習塾に行かせたい
- 利用を希望するサービスはない
- その他
- 無回答

利用したい保育サービス等

～幼稚園、認可保育園の利用意向が高い

保育サービス等の利用意向が「ある」と回答した人の利用したい保育サービスをみると、「幼稚園」が最も多く 39.7%、「認可保育園」(39.3%) もほぼ同じ割合を示している。次いで「幼稚園での預かり保育」が 20.5%、「幼保園」が 11.3%と続いている。

■ 就学前児童の保護者が利用したい保育サービス等 (複数回答)



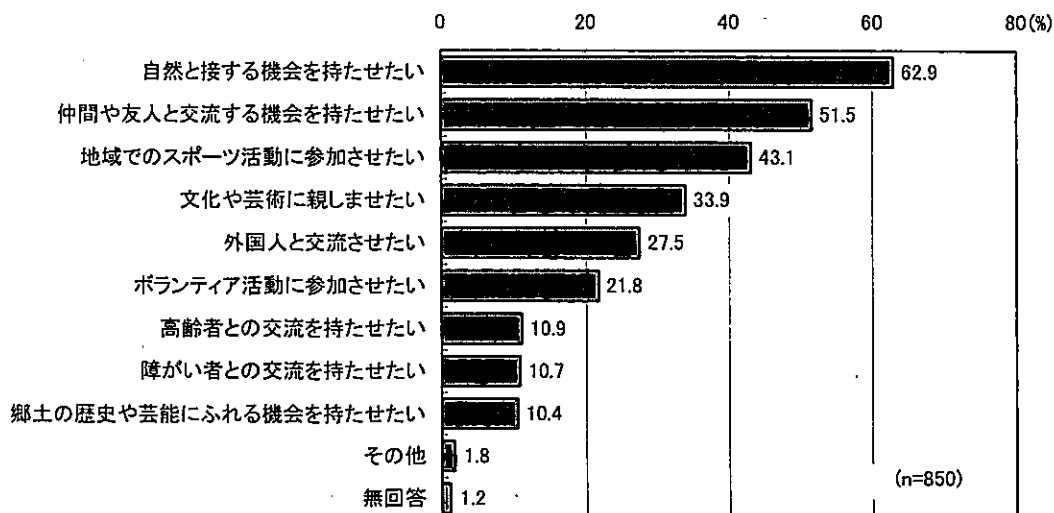
(注) 認定こども園(1)は、共通利用時間のみでの保育の利用。認定こども園(2)は、共通利用時間以上の保育の利用。

今後子どもにさせたい体験

～自然と接したり、地域活動などを通じさまざまな人と交流する体験をさせたい

今後子どもにさせたい体験をみると、「自然と接する機会を持たせたい」が最も多く 62.9%、次いで「仲間や友人と交流する機会を持たせたい」が 51.5%、「地域のスポーツ活動に参加させたい」が 43.1%、「文化や芸術に親しませたい」が 33.9%、「外国人と交流させたい」が 27.5%と続いている。

■ 就学児童の保護者が今後子どもにさせたい体験 (複数回答)



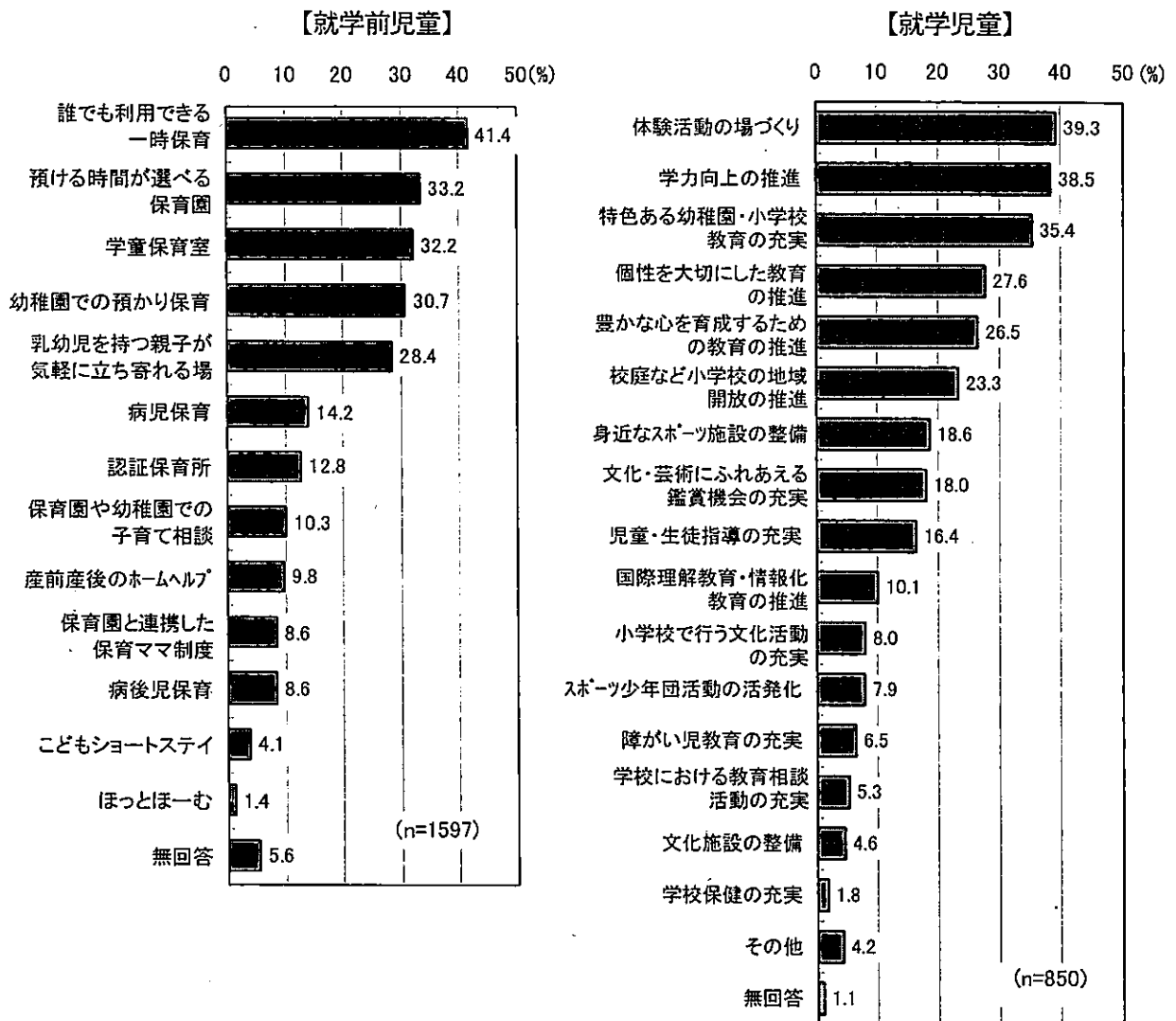
子育て支援の重点施策

～利便性のある保育環境および充実した教育環境の整備が求められている

子育て支援の重点施策をみると、就学前児童の保護者では「誰でも利用できる一時保育」が最も多く41.4%、次いで「預ける時間が選べる保育園」が33.2%、「学童保育室」が32.2%、「幼稚園での預かり保育」が30.7%、「乳幼児を持つ親子が気軽に立ち寄れる場」が28.4%と続いている。

就学児童の保護者では「体験活動の場づくり」が最も多く39.3%、「学力向上の推進」(38.5%)もほぼ同様の割合を示している。次いで「特色ある幼稚園・小学校教育の充実」が35.4%、「個性を大切にした教育の推進」が27.6%、「豊かな心を育成するための教育の推進」が26.5%、「校庭など小学校の地域開放の推進」が23.3%と続いている。

■ 子育て支援の重点施策（複数回答）



## ◆小学生（4～6年生）・中学生・高校生

### 学校がある日の起床時刻

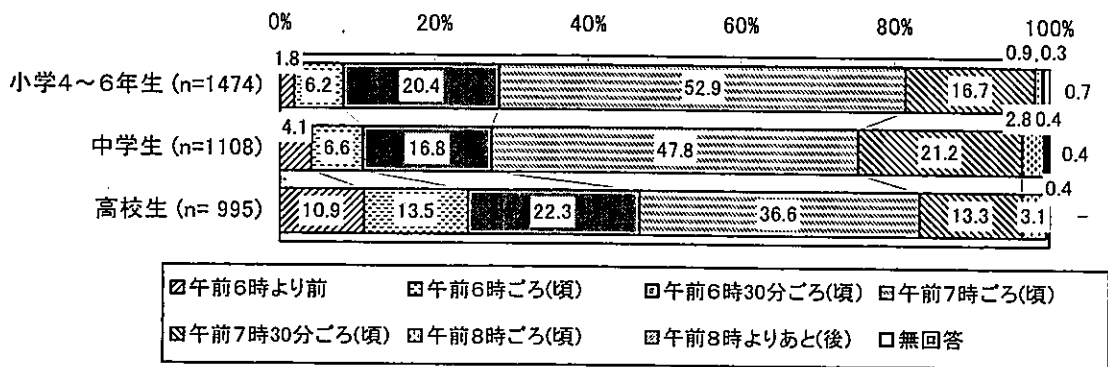
～小中高生のほとんどは朝7時半には起きています。高校生は早く起床

学校がある日の起床時刻をみると、小学4～6年生では「午前7時ごろ」が最も多く52.9%、「午前6時30分ごろ」（20.4%）、「午前7時30分ごろ」（16.7%）も含めると、「午前6時30分ごろ～午前7時30分ごろ」が9割を占めている。

中学生では「午前7時頃」が最も多く47.8%、「午前7時30分頃」（21.2%）、「午前6時30分頃」（16.8%）も含めると、「午前6時30分頃～午前7時30分頃」が約9割を占めている。

高校生では「午前7時頃」が最も多く36.6%、「午前6時30分頃」（22.3%）も含めると、「午前6時30分～7時」が約6割を占めている。次いで「午前6時頃」が13.5%、「午前7時30分頃」が13.3%と続いている。

#### ■ 学校がある日の起床時刻



(注) ( ) 内は中学生・高校生の選択肢である。

### 学校がある日の就寝時刻

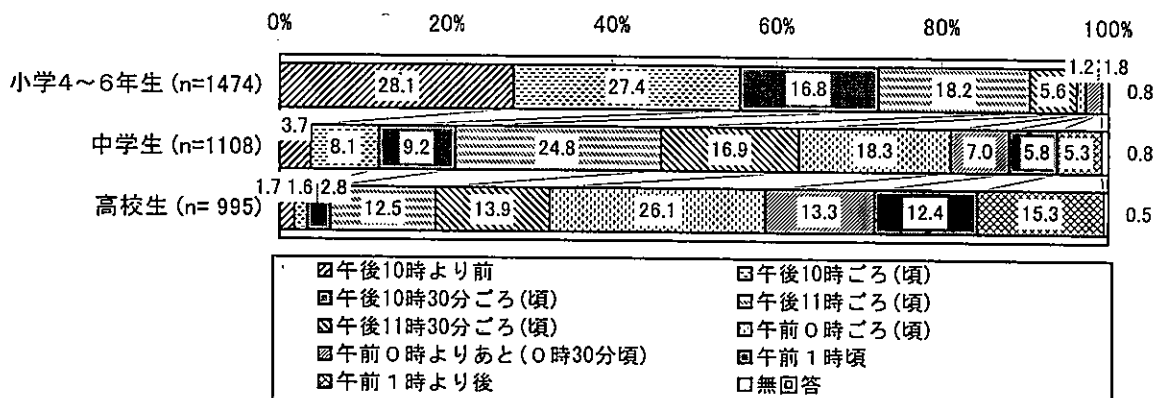
～年齢が上がるにつれ就寝時刻は遅くなる傾向。高校生は深夜に就寝

学校がある日の就寝時刻をみると、小学4～6年生では「午後10時より前」が最も多く28.1%、次いで「午後10時ごろ」が27.4%、「午後11時ごろ」が18.2%と続き、「午後11時30分以降」が8.6%となっている。

中学生では「午後11時頃」が最も多く24.8%、次いで「午前0時ごろ」が18.3%、「午後11時30分頃」が16.9%と続いている。

高校生では「午前0時頃」が最も多く26.1%、「午前0時30分頃」（13.3%）、「午前1時頃」（12.4%）、「午前1時より後」（15.3%）も含めると、「午前0時以降」が約7割を占めている。次いで「午後11時30分頃」が13.9%、「午後11時頃」が12.5%となっている。

#### ■ 学校がある日の就寝時刻



(注) ( ) 内は中学生・高校生の選択肢である。また、「午前1時頃」「午前1時よりあと」は小学4～6年生には質問していない。



## 朝食の摂取状況

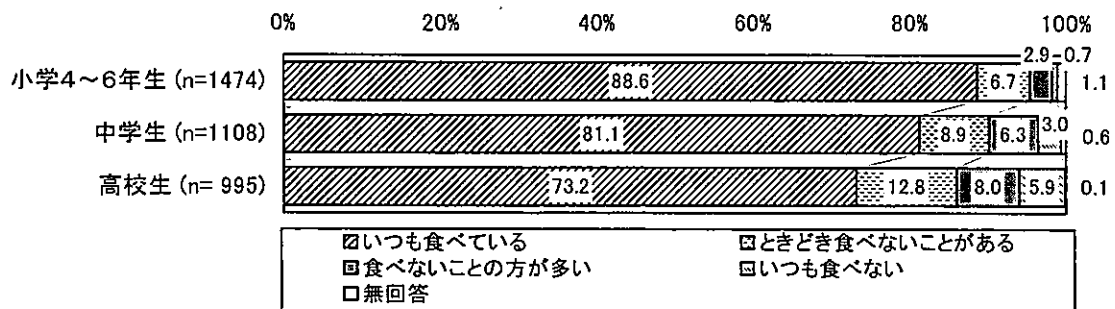
～多くの小中高生が摂取しているが、学年が上がるにつれて、食べない傾向

朝食の摂取状況を見ると、小学4～6年生では「いつも食べている」が88.6%となっているが、“食べないことがある”が10.3%（「ときどき食べないことがある」6.7%+「食べないことの方が多い」2.9%+「いつも食べない」0.7%）となっている。

中学生では「いつも食べている」が最も多く81.1%、“食べないことがある”が18.2%（「ときどき食べないことがある」8.9%+「食べないことの方が多い」6.3%+「いつも食べない」3.0%）となっている。

高校生では「いつも食べている」が73.2%、“食べないことがある”が26.7%（「ときどき食べないことがある」12.8%+「食べないことの方が多い」8.0%+「いつも食べない」5.9%）となっている。

■ 朝食の摂取状況



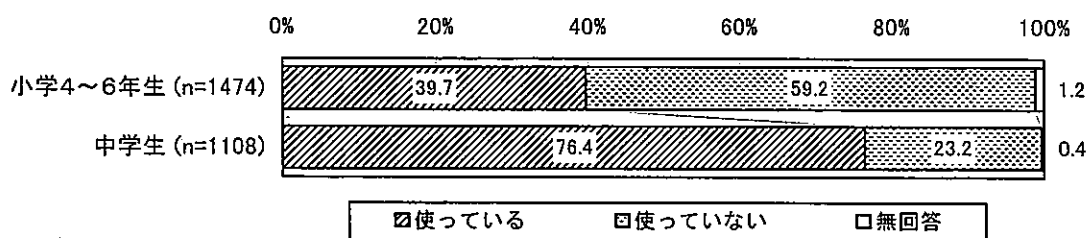
## 携帯電話の利用状況

～小学生の4割、中学生の8割が使用

携帯電話の利用状況を見ると、小学4～6年生では「使っている」が39.7%、「使っていない」が59.2%となっている。

中学生では「使っている」が76.4%、「使っていない」が23.2%となっている。

■ 携帯電話の利用状況



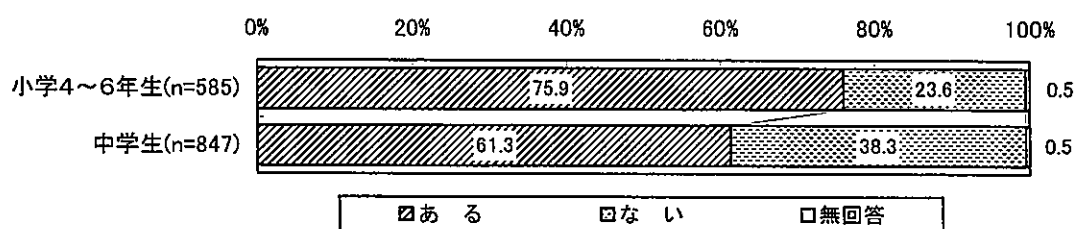
## 携帯電話の利用にあたってのルールの有無

～多くの小学生、中学生が何らかのルールのもとに使用

携帯電話を「使っている」と回答した人の携帯電話の利用にあたってのルールの有無を見ると、小学4～6年生では「ある」が75.9%、「ない」が23.6%となっている。

中学生では「ある」が61.3%、「ない」が38.3%となっている。

■ 携帯電話の利用にあたってのルールの有無

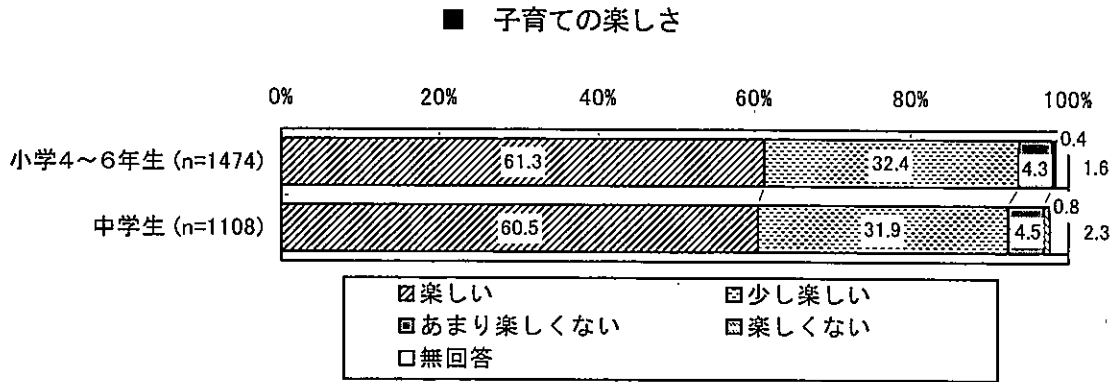


## 子育ての楽しさ

～ほとんどの保護者は、子育ての楽しさを実感している

子育ての楽しさをみると、小学4～6年生の保護者では“楽しい”が93.7%（「楽しい」61.3%+「少し楽しい」32.4%）、「楽しくない」が4.7%（「あまり楽しくない」4.3%+「楽しくない」0.4%）となっている。

中学生の保護者では“楽しい”が92.4%（「楽しい」60.5%+「少し楽しい」31.9%）、「楽しくない」が5.3%（「あまり楽しくない」4.5%+「楽しくない」0.8%）となっている。



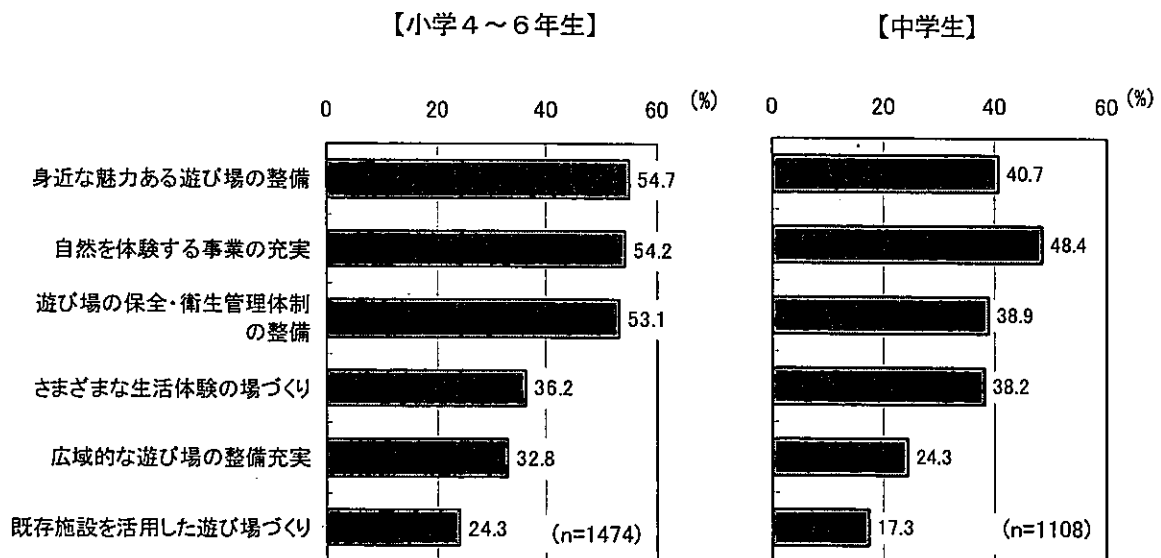
## 子どもの遊ぶ環境をよくするために必要なこと

～子どもが身近に自然を体験できる場・機会が必要

子どもの遊ぶ環境をよくするために必要なことをみると、小学4～6年生の保護者では「身近な魅力ある遊び場の整備」が最も多く54.7%、次いで「自然を体験する事業の充実」が54.2%、「遊び場の保全・衛生管理体制の整備」が53.1%、「さまざまな生活体験の場づくり」が36.2%と続いている。

中学生の保護者では「自然を体験する事業の充実」が最も多く48.4%、次いで「身近な魅力ある遊び場の整備」が40.7%、「遊び場の保全・衛生管理体制の整備」が38.9%、「さまざまな体験の場づくり」が38.2%と続いている。

### ■ 子どもの遊ぶ環境をよくするために必要なこと（複数回答、上位6位）



自己肯定感

～高校生は低く、青年は高いが、ともに他者や社会へ貢献を望んでいる

自己肯定感をみると、高校生では「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた“そう思う”が最も多いのは『誰かのために何かをしたい』(71.8%)であり、次いで『社会に役立つことをしたい』(59.6%)、『自分には何かができる』(48.6%)と続いている。

一方、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた“そう思わない”が最も多いのは『自分は役に立つ人間だと思う』(75.7%)であり、次いで『自分にはいいところがたくさんある』(74.3%)、『自分のことが好きだ』(67.8%)、『自分は人から必要とされている』(67.5%)、『自分は目標に向かって努力している』(58.8%)と続いている。

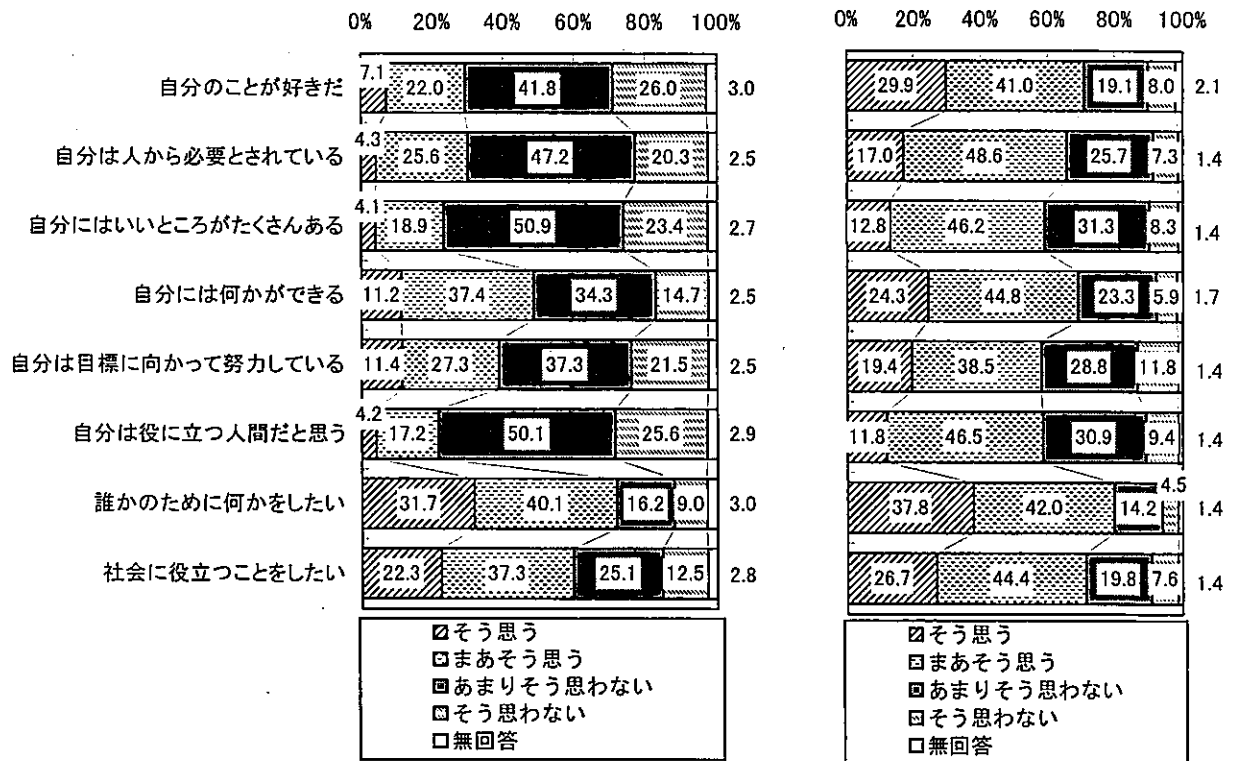
青年では「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた“そう思う”が最も多いのは『誰かのために何かをしたい』(79.8%)であり、次いで『社会に役立つことをしたい』(71.1%)、『自分のことが好きだ』(70.9%)、『自分には何かができる』(69.1%)、『自分は人から必要とされている』(65.6%)と続いている。

一方、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせて“そう思わない”が最も多いのは『自分は目標に向かって努力している』(40.6%)であり、次いで『自分は役に立つ人間だと思う』(40.3%)、『自分にはいいところがたくさんある』(39.6%)、『自分は人から必要とされている』(33.0%)と続いている。

■ 自己肯定感

【高校生】(n=995)

【青年】(n=288)



◆ 青 年

生活と仕事の満足度

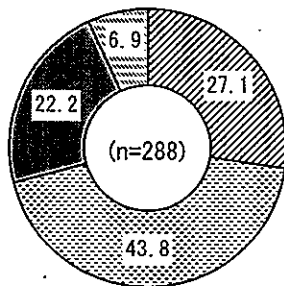
～今の生活には「概ね満足」、仕事内容には「どちらかといえば満足」

現在の生活の満足度をみると、“満足している”が70.9%（「満足している」27.1%+「どちらかといえば満足している」43.8%），“不満である”が29.1%（「どちらかといえば不満である」22.2%+「不満である」6.9%）となっている。

就労の有無で“就労している”と回答した人の仕事の内容の満足度をみると、“満足”が60.3%（「満足」16.1%+「どちらかといえば満足」44.2%），“不満”が36.2%（「どちらかといえば不満」26.1%+「不満」10.1%），“わからない”が3.0%となっている。

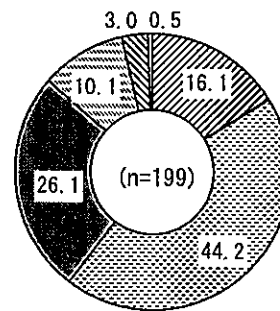
■ 生活と仕事の満足度

【生活の満足度】



満足している  
 どちらかといえば満足している  
 どちらかといえば不満である  
 不満である

【仕事の満足度】



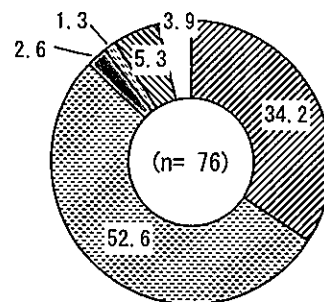
満足  
 どちらかといえば満足  
 どちらかといえば不満  
 不満  
 わからない  
 無回答

就労意向

～青年の8割は就労意向を持っている

就労の有無で「学生（定期的なアルバイトあり）」「学生（定期的アルバイトなし）」「無職」と回答した人の就労意向をみると、「希望の仕事があれば働きたい」が最も多く52.6%、次いで「希望と違う仕事であっても、働きたい」が34.2%となっている。

■ 就労意向



希望と違う仕事であっても、働きたい  
 希望の仕事があれば働きたい  
 働いても働かなくてもどちらでもよい  
 働きたくない  
 その他  
 無回答

第2期あだち次世代育成支援行動計画策定のためのアンケート調査報告書（概要版）

平成21年3月発行

発行 足立区  
 編集 足立区子ども家庭部（副参事）子ども施策推進担当  
 足立区教育委員会生涯教育部青少年センター  
 〒120-8510 東京都足立区中央本町1丁目17番1号  
 TEL：03-3880-5266（直通）

登録番号20-1014